

第 619 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

「フリートーク」



平成 28 年 7 月 20 日

BSN新潟放送

第619回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成28年7月20日（水）午前11:00～

2. 開催場所 新潟放送 本社 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	相羽利子	副委員長	古賀豊
委員	正道かほる	委員	小島良子
委員	佐藤元	委員	高木言芳
委員	服部誠司		

○委員側欠席者

委員	佐々木広介	委員	細田康
委員	池田幸博		

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	営業局長	斎藤和利
編成局長	島田好久	報制局長	太田志信
ラジオ本部長	高坂元己		

事務局

事務局長	増山由美子	(広報部長)
事務局員	丹羽崇	(社長室長)

4. 議題

1. 報告事項 「8月・9月の新番組・単発番組」報告
2. 審議事項 「フリートーキング」
この半年間（1～6月）にB S Nで放送した番組について
および放送全般について

5. 議事の概要

各局長からの8・9月度番組報告に続いて、審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- TBSの報道番組は従来通り信頼感のある作り方で、これからも硬派な方針を貫いてほしい。一方、今のような情報番組は必要なのか？コメンテーターの中には専門家もいるが、出演タレントは専門家なのか、視聴者の代表なのかよく分からぬ。「ビビット」などを見ていると、乱暴な発言も許されていて、責任を問われず、非常に気になる。ドラマは「わたしを離さないで」のような意欲的な作品があつたり、「99・9」は面白かった。「重版出来」は残念な視聴率だったが、とても良いドラマだったので、ぜひ続編を作つてほしい。
放送全般としては、番組配信ビジネスが本格的に普及する勢いで、視聴行動のビッグデータによるレコメンドシステムを踏まえたオリジナル番組制作も進んでいて、テレビ放送自体にも影響を与えるなど大きな存在になると思う。BSNの自社制作番組については、「にいがた偉人伝」や「ガラスの中の夢たち」などとても素晴らしい。後で見ても色あせないので、今後も作り続けてほしい。また、「水曜見ナイト」は作り続けることに意義があると感じる。
- 「サンデーモーニング」はずっと見ていて、コメンテーターが変わっても番組の基本路線は変わっていない。こうした長寿番組は見飽きない作り方をしている。以前は家族でテレビを見ていたが、最近はそれぞれが見たい番組を録画して、夜遅くなつてから一人で見るスタイルに変わっている。その中で「99・9」など日曜劇場は家族で見ている。また、報道番組はまじめさを売りにして、大人が見て、真剣に向き合える番組を作つてほしい。一方、BSNの自社番組については、「にいがた偉人伝」といった子どもに残してほしい番組をDVDにして、教育目的で学校に置いてもらえると良いと思う。
- TBS系列のニュース番組を見る機会が多い。「ニュース23」は星浩氏がキャスターになり、進行や発言に注目しているが、政権寄りのスタンスとは感じられず、安心感安定感がある。ただ、中庸を意識しているのかコメントの斬り込み方に若干物足りなさを感じる。「サンデーモーニング」は休みの朝の気分を良くとらえた番組作りだと思う。張本氏のコメントも楽しみで、岸井氏をはじめ各コメンテーターの発言も問題の本質をついているものがあり、鋭い。「新・情報7days」は肩の力を抜いて、一週間の出来事を振り返り、時に真剣に向き合い、時に笑いながらニュースが楽しめる。ドラマについては「99・9」「重版出来」はいずれも明るく、分かりやすい作り。「マツコの知らない世界」はマツコとともに、登場する素人の面白さが際立っている。放送全般についてはバラエティ、お笑いに頼りすぎではないか。毎日どのチャンネルを回しても同じような番組だと感じる人もいるのではないか。もう少し多様性をもつた番組編成をお願いしたい。また、今年の夏はオリンピックが控えているが、去年は終戦70年で熱のこもつた終戦報道・ドラマがあった。71年目になったら、パッタリ…ではなくて去年の流れを受け継ぐ取り組みに期待したい。
- BSNは他局と比べてラジオもあって、多様な番組構成を心掛けていると思う。「水曜見ナイト」はゴールデンタイムを一時間使って地域の魅力を掘り下げる、精力的な番組だと思う。食べ物の話題が多く、グルメに偏っていて、他に何かないのかと言いた

い部分もあるが、これからも続けてほしい。また、「にいがた偉人伝」は映像が持つ説得力があり、期待している。

- 放送全般について、ニュース番組の動きが気になる。ニュースなのか、ワイドショーなのか、また、タレントや俳優など見栄えする人を出演させるが、コメント内容は大丈夫なのか。最近の傾向として、司会者やコメンテーターが偏った意見に集中しすぎる。反対する意見や違った意見もバランスをとって紹介することが放送機関の役割だと思う。ややもすると押し付けに感じるだけに報道の姿勢が大事。B S Nは地方の局として子供に残したい番組をこれからも制作し続けてほしい。
- T B S系列の番組は全体的に視聴率が上がってきたと思う。日曜日の朝の安定感は変わらない。バラエティ、ドラマともに新たな切り口、取り組みを行っていて、非常に評価できる。一方で、昔の焼き直し、タレントの人気頼みで見透かされることも。B S Nの自社制作番組では、「ゆうなび」が新海キャスターの登場で非常に幅が出た。この時間帯のメインキャスターは割と外に取材に出て、自分の感想を語っていて、好感が持てる。番組内の曜日ごとの特集はタイムリーなトピックスを取り上げるなど工夫していて、面白い。また、諏訪田製作所を紹介した「日本のチカラ」と写真家の天野さんを取り上げた「ガラスの中の夢たち」は後世に残してほしい、素晴らしい番組だった。一方、ラジオは、「ながら」で耳に入ってくるもので、大事な存在だが、今の若い人が接触する機会があまりないので遠い存在のように感じている。これを何とかしないとさらにすたれる可能性がある。
- 友達に聞くと、以前は「支持政党なし」の人が政治を遠い話と思わず、茶飲み話にするようになった。そうした中で、ニュースをよく見ているので、健全な批判精神で斬り込んでほしい。色々と知りたいことがテレビであまり報道されないように感じる。インターネットにアクセスできない高齢者にとってテレビは情報源であり、多様な情報を伝えてほしい。B S Nの自社制作番組の「水曜見ナイト」は食べ物の話題に偏っている気もするが、評判が良く必ず見ている。
「にいがた偉人伝」は15分と短い番組だが、先人の業績と人柄が伝わってきて、上手な作りであり、完成度も上がっている。
- どのチャンネルも同じ内容で、もう少し、各社のオリジナル番組を作ってほしいが、B S Nの自社制作番組は地域を大切にして、まじめに取り組んでいる。
「にいがた偉人伝」は後世に残る番組で、嬉しく思う。また、諏訪田製作所を取り上げた「日本のチカラ」は良い番組だった。ただ、ある意味、メディアは政治権力より強い場合もあるので、B S Nが良い方向に導いてほしい。最近、本を読むのが苦手になり、朗読を吹き込んだCDを車の中で聴くようになった。ラジオでも朗読の番組を作ってほしい。

～新潟放送・竹石松次代表取締役社長から～

貴重なご意見をお寄せ頂き、ありがとうございます。

- 時代の変化を捉えて、かつ、時代に流されないよう、テレビとラジオの役割を改めてかみしめ、適切に対応するよう現場に伝えている。また、「にいがた偉人伝」については放送終了後、DVDにして県内の学校や施設に無料で配布できるよう準備を進めている。

【文責・番組審議会事務局】
